

めくる、めぐる、富山のしあわせ

とやま日季

にっき

2012 冬号

とやまブランドものがたり「富山湾のブリ」
特集 とやま暮らし日季

立山町／高橋敬市さん、敏子さん

とやま対談

J T I C・S W I S S 代表 山田桂一郎

とやまを観る旅 国宝 瑞龍寺
富山県知事 石井隆一 ×

とやまを観る旅 国宝 瑞龍寺

くらしたい国、富山

極上をあなたに。

とやまブランドものがたり



ブリの旨味をたっぷり吸ったブリ大根。一晩置いて、2日目に再び火を通すとさらにおいしくなる。

富山湾のブリ

「富山湾の王者」といえば、ブリ。鱗起し（ぶりおこし）と呼ばれる雷鳴が轟き、みぞれが降り始めると、寒ブリ漁の季節の到来です。まるまると太り、たっぷりと脂の乗ったブリは、富山の冬の一番のごちそう。刺身や鮓、照り焼き、ブリしゃぶ、ブリ大根、かぶら寿しなど、楽しみ方もさまざまです。

なぜ、富山湾で揚がるブリが特においしいと言われるのか、それにはいくつもの理由があります。

ブリは回遊魚で、主な産卵場所は東シナ海。生まれた稚魚は、春から夏にかけて対馬暖流に乗って日本海を北上し、やがて北の海へ。水温が下がる秋の終わり、ブリは再び南下を開始。冬の富山湾で獲れるブリは北海道沖から九州に南下途中の3歳以上のブリで、長旅と産卵に備えて、たっぷりと栄養と脂を蓄えた最高の状態でやってくるのです。

また、富山湾の定置網で獲れたブリは、獲れた直後に大量の氷水に漬け、仮死状態にする「沖締め」にされます。漁場から港までの距離も近く、鮮度は抜群。さらに湾の地形から冬の荒天時にも比較的漁に出やすく、ブリができるだけストレスなく獲る定置網漁が古くから発達したことでもおいしさの理由です。

総務省の全国家計調査でも、富山県（富山市）の一帯あたりのブリの年間支出額は39年連続で全国1位。成長に合わせて呼び名の変わる「出世魚」ブリは、富山の贈答儀礼には欠かせない魚となっています。結婚した最初の年末には、歳暮ブリ（嫁ブリ）として実家から嫁ぎ先に10キロ以上のブリを贈り、その片身をふたたび実家に返すという風習もあります。ブリを愛する富山県民は、長い歴史の中で、なくてはならない食文化の一つとしてブリを大切にしてきました。

「天然ブリは冷凍に向かないため、やはり地元で食べるのが一番。富山の人々が『自分たちの魚』と考えているほど暮らしに深く根付いていることが、おいしさの一番の理由だと思いますよ」と富山県漁業協同組合連合会の安吉孝士さん。富山県民が深く愛するブリを、ぜひこの冬富山で、堪能してみませんか。



魅力ある富山県产品の中でも、とくに自信をもって誇れる極上の产品を「富山県推奨とやまブランド」に認定しています。豊かな自然と歴史、人々の知恵や文化を背景とした、富山の魅力の象徴として、国内外へ発信しています。

お問い合わせ: 富山県観光・地域振興局地域振興課
TEL 076-444-9605
<http://toyama-brand.jp>



富山のブリは、
富山でいただく。
だから、おいしい。

漁の最盛期は12月から1月。大漁の日は港が活気づく。富山湾のブリは県内で消費される他、一部が関東や関西方面にも出荷される。ブリは成長とともに、ツバメソ、コズカラ、フクラギ、ガンド、ブリと名前が変わる出世魚。3歳以上のものをブリと呼ぶ。

「立山町・高橋敬市さん
とやま
芦嶋寺
四季」



「雪煙上がる早月尾根」剣岳山頂付近に上がる雪煙は、
晩秋から冬の間、晴から雨へと天候が変わると見ら
れる、強い風で雪が舞い上がる現象だ。(高橋さん撮影)

富山に暮らし、四季の 豊かな表情を撮る。

富山県立山町芦嶋寺(あしくらじ)は、古くから立山信仰(※)の拠点として栄えたところ。周辺には厳肅な氣配が漂う雄山神社、立山信仰の歴史を紐解く富山县「立山博物館」、立山黒部アルペンルートの出発点の立山駅などがあり、国内外から多くの登山客や観光客が訪れる場所です。

「聖なる山」立山への入り口であるこの芦嶋寺に住み、四季折々の富山の豊かな表情を撮り続けているのが写真家の高橋敬市さんです。高橋さんは立山や県内各地の撮影を精力的に行い、何冊もの写真集を出版。自宅一階では妻の敏子さんと写真ギャラリーとティー
ルームを営みます。高橋さん撮影の立

循環する豊かな水、
美しき原風景を、
次世代に伝えたい。

——立山町・高橋敬市さん 敏子さん

山や剣岳などの写真パネルも展示され、迫力に満ちた自然の営み、叙情あふれる富山の暮らしや文化の魅力を、訪れる全国の人々に紹介しています。

富山で暮らし24年になる高橋さん。

富山にはまだまだ撮りたい風景がたくさんあり、テーマは尽きないです。私はにとっての富山は、何気ない風景のなかにこそ魅力があるんです。南国育ちで雪も大好きですし、富山に暮らし、好きなものを好きなだけ撮ることは、まさに写真の醍醐味ですね」

高橋さんは高知市生まれ。父親の影響でスキーに魅せられ、21歳頃から立山の剣御前小屋で働きはじめます。山小屋でいつしょに働いていた東京出身の敏子さんと結婚後は埼玉県所沢市に居を構え、高橋さんは単身で夏は立山の山小屋、冬はスキー場で働く生活を



※立山信仰 土着的な神と仏が一体となった独特の信仰。人々は地獄谷を地獄に、みくりが池を血の海に見立て、悪事をはたらくと地獄に落ちると恐れつつ、立山三山を浄土の象徴として立山を巡拝し、極楽往生を願った。生涯に一度は立山に登ることが信者の目標とされた。

続けます。

しかし、子どもが生まれる直前に山小屋が火事になり職を失うことに。人生の岐路に立ち、それまで山の天候予測のために撮っていた写真に活路を見出します。立山に通つて撮影しながら、出版社との人脈を築き、写真家としてのあらたな人生を開拓していきました。

とやまの水、循環の風景を撮りたい。

その後、約1年半にわたって、カナダ

のアルバータ州のジャスパーという町に、敏子さんと幼い息子の陽之(はるゆき)さんとともに滞在し、撮影活動を行いました。

帰国後、ふたたび所沢に戻ったのですが、カナダの広い空を見て暮らした私たちは、都会はごちやごちやして、とても住みにくい場所でした』

その頃、敏子さんが友人を尋ねて富山を訪れたとき、「富山の空はカナダのよう」と思ったそうです。離れて暮らす時間が長かつた父と子と一緒に暮らせるようにとの思いもあり、富山に移り住むことを決意。平成元年に、山小屋のオーナーの紹介で芦嶺寺での暮らしが

始まりました。息子の陽之さんは地元の小学校に入学後は、学年を超えて友達ともすぐに馴染み、「芦嶺弁」を話す元気な子どもに育つていきました。

以来24年、高橋さんは、一つひとつテーマを深く掘り下げながら、富山の風景を撮り続けることを大切にしてきました。立山の美女平にある1本の立山杉のもとに10年通い続けて完成した写真集『立山杉』や、チングルマの四季の変化を追つた写真集など、いずれも、富山に住んでいるからこそ撮影が可能な貴重な写真ばかりです。

高橋さんが長年にわたり、最も大切にしているテーマは「水の循環」です。「山にかかる雲が雨や雪となり、川となつて富山湾へ流れしていく。それがふたたび水蒸気となつて山の雲になる。これからも四季を通して、水の豊かな富山ならではの風景を撮り続けていくたいですね。演出された世界ではなく、

富山の人があたり前と思っている風景や暮らし、文化のなかにこそ、後世に伝えたい宝物があるんですよ」

暮らいや文化を楽しむこころのゆとりが大切だと話す高橋さん。富山に残る豊かな原風景を撮り、人々に伝えたいといきたいと考えています。



高橋さんも写真展を開催したことがある教算坊(きょうさんぼう・次頁参照)。手入れの行き届いた庭や建物も高橋さんの撮影ポイント。管理する志鷹義勝さんと。

A day in the life of TOYAMA

ある1日のとやま日季

高橋さんのある1日を教えてもらいました。



芦嶽寺の雄山神社は靈峰立山を神体とし、映画「剣岳 点の記」にも登場する神聖な場。正月には雪の参道にあかりが灯りひと際美しい、高橋さんお気に入りの場所。



左:パネルや写真集が並ぶギャラリー。撮影機材はいつでも準備万端。愛犬シュガーもおとなしく帰りを待つ。 左下:スキー仲間の店「ピステ」で昼食後、午後の準備へ。

右:上市町主催の写真教室。道沿いに咲く花などの解説をしながら、写真の撮り方だけでなく山の楽しみ方を伝える。



芦嶽寺に残された2つの宿坊のうちのひとつ、教算坊。現在、奥の間3室は立山曼荼羅・チベット曼荼羅・前田常作曼荼羅を展示した「観想の間」として公開している。



この日は天気が下り坂で、雲の流れが早く面白い写真が撮れると判断。早朝は剣岳の日の出のカットを狙って立山町の隣り、上市町方面へ。帰宅後は、自宅から歩いて5分の場所にある雄山神社へ。樹齢数百年の大木の間を歩きながら、撮影と憩いのひとときを。



上市町主催の写真教室へ。大岩山日石寺付近から出発し、城ヶ平遊歩道を散策する。446.3mの山頂は広々としていて、360度見渡せる気持ちのいい場所。晴れていれば剣岳や大日岳も見ることができるが、この日は曇り空で、残念ながら山々は見えず。



自宅1階のギャラリーとティールームで、これまでに撮った写真の整理をしたり、お客様の対応を。ギャラリー内にはこれまでに出版した写真集も置かれ、おいしいコーヒーを楽しみながら、山の話や写真の撮り方など話は尽きない。



立山博物館の隣にある教算坊は江戸時代後期に創建された宿坊と考えられる場所。奥の間には立山曼荼羅や前田常作曼荼羅などを展示した部屋があり、庭園は「とやまの名勝」にも選定されている。「地元の人にもっと訪れてほしい隠れた名所」と高橋さんは話す。

たかはしけいいち
高知市生まれ。北アルプス、立山の剣御前小屋に勤務後、写真家として独立。カナダに一年半滞在後、立山や富山の四季を撮った写真集を数多く出版。日本写真家协会会员。



とやま暮らし 便利雑季

立山町



交流施設

立山町元気交流ステーション “みらいぶ”誕生！

福祉施設や立山図書館など、町の公共施設と富山地方鉄道立山線の五百石駅が一体となった複合施設「立山町元気交流ステーション」が昨年5月に完成しました。図書館や改札口につながる「駅ニワ」は、雪の大谷をイメージ。2階には立山連峰を真正面に臨むテラスが広がります。他にもイベント広場や喫茶コーナー、会議室などが集約され、公共機関と連携した利便性の高い町の顔としてご利用いただけます。

- 所在地:中新川郡立山町前沢1169番地
- お問い合わせ:立山町元気交流ステーション
TEL 076-463-0001

暮らしの支援

町民お気軽バス

通院や買い物など高齢者の生活の足を確保するため、町内在住の63歳以上の方と障害者手帳をお持ちの方を対象に、町内限定で富山地方鉄道の電車やバス、町営バスを低価格で利用できる「お気軽バス」を発行しています。

- お問い合わせ:立山町役場 住民課
TEL 076-462-9963

買い物たのまれ屋

商工会が主体となり、高齢者の方や乳幼児を抱えるご家庭など立山町にお住まいの全世帯を対象に、食料品や日用雑貨を、町内加盟店で調達し、ご自宅までお届けしています。

- お問い合わせ:たのまれ屋(休んでかれや内)
TEL 076-464-1770 受付時間:月曜~土曜
9:00~17:00



ラムサール条約湿地登録認定証授与式

自然環境

立山弥陀ヶ原・大日平が ラムサール条約に登録

立山弥陀ヶ原と大日平が、昨年7月、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録されました。国内で最も高地にある登録地です。立山は古くから靈山として信仰の対象とされ、そこには極楽と地獄が存在するとされていました。湿原に点在する池塘(ちとう)、別名「餓鬼の田」は、地獄で飢えに苦しむ餓鬼が作った田という言い伝えがあり、その数は数千を数えます。そんな恐ろしい言い伝えをよそに、夏には一面に高山植物が美しく咲き誇ります。

- お問い合わせ:立山町役場 商工観光課 観光交流係 TEL 076-462-9971

「立山駅」までのアクセス方法

- 自動車で 関越自動車道・藤岡JCT→上信越自動車道・上越JCT→北陸自動車道・立山IC→県道3号→県道6号→立山駅●JRと地鉄で 東京→上越新幹線→越後湯沢駅(1時間15分)→北陸本線→富山駅(特急はぐたかで2時間20分)→富山地方鉄道立山線・立山駅(約1時間)●飛行機と地鉄で 羽田空港→富山空港(1時間)→連絡バス・富山駅→富山地方鉄道立山線・立山駅
*立山町役場にお越しの際は、富山地方鉄道立山線「五百石駅」で下車。



ここから、
あたらしい富山へ。

とやま対談

ーターを増やすための具体的な方策など、率直なご意見をいただきたい。

山田 富山県が持つ自然環境や世界遺産、名所旧跡など、資源の豊かさは日本の中でも有数のものです。例えば海越しに見える立山連峰など、冬の雪を抱く山を海越しに見ることはできるのは、世界では他にアラスカくらいです。県内各地のお祭りや豊かな食など、伝統文化や生活風習にも素晴らしいものがたくさん残っています。世界中いろんなところに行つた経験からも、資源のすばらしさでは、「スイスに海がついたようなもの」だと思います。

石井 山田さんは、世界トップレベルの観光地であるスイスでの経験やノウハウを生かされ、全国各地で観光カリスマとして、また、地域振興や再生のコンサルタントとしてもご活躍です。本県では、一昨年スタートした「とやま観光未来創造塾」の主任教授として熱心に取り組んでいただき、感謝しております。

スイスは山岳リゾートとして、世界有数の観光地ですが、そこでご活躍され、世界をご覧になっている目から見て、富山県の観光の可能性をどう見ておられますか。富山県は、立山黒部アルペンルートや世界遺産の五箇山合掌造集落など観光資源が多く、また来たいと思う人の比率が高い反面、実際のリピーター率は若干低いという課題があります。リピ

世界に誇る資源がある

一方で、リピーター率の低さは、日本中の観光地の課題ですが、その原因は物見遊山と言われる観光パトーンにあります。立山のきれいな景観に感動しても、記念撮影をして記憶に残せば、もう一回来ることは難しくなる。それは私が住んでいるスイス・ツェルマットのマッターホルンや富士山でも同じです。

マーケットが年々多様化しているからこそ、ターゲットとしたお客様が再び來たくなる、もしくは、これだつたら富山県へ行くしかないと言い訳が出来るぐらいの必然性づくりをしていただくことが一番。旅の商品化で富山県内各地

観光振興に向け、
地域振興、ひいては
人間の振興が大切。

石井 隆一

富山県知事

いしい・たかかず／富山県知事。東京大学法学部卒。石川県、北九州市、静岡県などを経て、地方分権推進委員会次長、自治省財政審議官、総務省自治税務局長、消防庁長官などを歴任。04年より現職。03年から06年まで早稲田大学大学院客員教授。主著に『元気とやま塾』入門—高志の国と世界を結ぶ「分権型社会の創造」など。

を目的地化させるための人材を育成しているのが「とやま観光未来創造塾」であります。県内の事業者や住民の方々にも力を入れていただきたいです。

石井 山田さんのご助言をいただき、一昨年から立山に山ガールを配置し、県内の寿司店に呼びかけて、「富山湾鮨」を売り出しましたが、いずれも好評です。

また、昨年11月、ユネスコの世界遺産

条約採決40周年記念富山会議を南砺市五箇山と富山市で開催しました。世界の専門家から、五箇山は、厳しい自然に対応する強固さと生活と生業(なりわい)の場が一体となつた合掌造りが残つてゐるだけでなく、豊かで美しいが大変厳しい自然環境のなか、創意工夫によつて自立した生活が営まれている点が高く評価されました。

さらに、防災と工芸の総合システムである立山砂防の「普遍的価値」についても理解が大きく深まりました。これらの魅力も、観光に活かしていきたい。

地域の日常に誇りをもつ

山田 お客様を惹き付ける要因は、「非

日常性」よりも、自分の生活とは異なる日常「異日常性」の豊かさ。つまり、ライ

フスタイルの豊かさを伝える必要があります。観光庁のビジョンでも「住んでよし、訪れてよしの国づくり」に取り組むとされていますが、お客さまにとつて、住んでみたいと思うほど憧れを持たれる地域でないと、なかなかリピーターになつてもらえません。そのためには、住んでいる人が地域に対して誇りを持たないと、魅力がある地域とは言えません。

私の住んでいるツェルマットは人口が6千人、車両は電気自動車と馬車のみで、一般の車をシャットアウトしています。建物の高さも制限し、電線電柱は埋設されています。これも、地元の方に言わせると、観光のためではなく自分たちの生活の質を上げるためにやつているのだと。その思いがベースにあり、誇りある素敵なまちになつてているからこそ、人が行つてみたいまちになるんです。

富山県民が、自分のまちに住んでいることに誇りを持ち、地域外の方からそのまちに行つてみたいと思われるような仕組みづくりと努力が必要です。よく耳にする、「自分の地域には何もない」とか「○○なんてあたりまえ」という言葉を使わないようにするためには、自分たちの地域を磨き上げようという気持ちにかかっています。まちを大切にする気持

幸せを感じる
感幸地としての、
富山県へ。

J T I C . S W I S S 代表

山田桂一郎

やまだ・けいいちろう/JTIC.SWISS代表。スイス・ツェルマットの観光局での経験や、世界各地でのツアーの実施経験を活かし、地域性を活かした商品開発など、地域観光のコンサルタントとして日本各地で大きな役割を果たす。観光庁認定、観光カリスマ。とやま観光未来創造塾主任教授。和歌山大学客員教授。北海道大学客員准教授。



ちと、訪れたお客さまを、おもてなしする気持ちは一緒です。関わる人たちの気持ちが違うだけで、お客さまにもそれが伝わり、共感、感動されるメッセージの度合いが全く違ってきます。

石井 知事に就任前の帰省時に、富山駅や空港からタクシーに乗り、お土産による品物を売るお店がないかと聞くと、ほとんどの運転手さんは、「富山には何もないぢや」と、答えました。実は謙遜して言っている面も多いでしょうが、その都度、がっかりしました。例えば京都では、タクシーの運転手さんが見事に自分のおすすめの場所を案内してくれ、お客様を喜び、運賃収入も増えます。ふるさとの良さを知り、磨きあげ、それに誇りや愛着を持ち、的確にアピールし発信することができ大事ですね。



「とやま観光未来創造塾」山田さんの講義を熱心に聴く塾生

を見ない素晴らしい取組みです。ぜひ継続してください。人材育成は1年、2年では結果が出にくいのですが、ちょっとした工夫で、富山県でなくてはならない「必然性」あるサービス、商品も出てくるようになります。さらなるリピーターの増加につなげるためには、今後も満足度と価値が上がる工夫を継続していく必要があります。

人材も、仲間もいかに増やしていくか。多様な連携が進めば必ず付加価値が高い商品が出てきます。今やっと、そういう連携の中核となる人材を育成しているところです。この動きをさらに支援してどう活かしていくかですね。

地域経済が潤う 観光商品づくり

石井 全国や世界を見て来られて、観光でうまくお金が地域にまわるような工夫で、成功している例はありますか。

石井 突き詰めていくと、地域づくりも組み、観光・地域振興局をつくりました。

観光で多くの人に来てもらうには、魅力ある地域づくりを進め、住んでいる人が誇りを持てるものにしないと、結局は観光振興もできないと思ったからです。お話を聞いて、改めてその狙いに間違いは

功例としては、国ならばイスや仏、伊。国内ならば沖縄の離島などが挙げられます。

地域で体験ツアーやつくるとき、そこで提供される食事の食材は地元産品にこだわることも一例です。安いからといつて、県外のものを使ったり、隣町から人を雇うのではなく、地元の業者さんや人を使う。そして地元のいい食材を使う。2次、3次効果を狙い、いかに地元の多くの方が関わることができます。

石井 確かに、そのようにお金が地域にまわると、みんなでその旅館や温泉を、盛り上げていこうという気持ちに、素直になりますよね。

山田 地域のなかで加速度的にお金がまわらないと景気がよくならない。そして、徹底的にその地域やまちにこだわればこだわるほど、富山県でなくてはならない商品になってしまいます。そうすると、富山県に来て下さいではなくて、富山県に行かざるを得ないのです。その上で、富山県に来てお金を使つてもらえる仕組みを狙いたい。そうすれば、県全体で潤う仕組みになつていくのではない

山田 地域内の高循環ネットワークができることで、観光業者に加え、農林漁業、商業など、いろいろな分野の方たちと連携が取れるようになり、実際に商品をつくっても、モノとお金が動くようになります。

山田 とやま観光未来創造塾は他に例

でしようか。

北陸新幹線開業に向けて

石井 あと2年程で北陸新幹線が開業

すると、東京富山間は2時間前後で結ばれます。従来は、輸送力が往復で年間600万席でしたが、開業後は12両編成で年間1900万席になります。これは絶好のチャンスで、観光振興、新たなビジネス交流などに大いに活かしたい。開業を控え、首都圏へのPRの手法についてご助言をいただきたい。

山田 富山の場合はどうしても途中駅になりますので、降りてもらうための必然性がないといけないです。まずは富山県にとって優良なターゲットを明確に決めること、そして、ターゲットのニーズに絞った商品をつくること。そうすればPRの仕方はいくらでも出てきます。マスだけに訴え、海に目薬をさすような行為は必要ありません。マーケットの要望、欲求を開拓し、戦略的にアプローチしていくべき、経済効果を高める集客の仕組みも拡大できると信じています。

石井 優良なターゲット向けの旅行商品を提案して、意欲のある旅行会社などに売り込んだり、ターゲットのお客さまに人気のある雑誌でアピールするなどの取組みをしつかり進めます。

山田

旅の行き先を決めるのも財布を

昨年、立山では日本初の氷河が発見され、弥陀ヶ原・大日平はラムサール条約の湿地に登録されるなど、うれしい話題が続きました。立山では、かねてマイカーの乗り入れ禁止、低公害バスの導入、ライチヨウ保護柵の設置、ごみの持ち帰り運動など、環境保全に努めてきました。その結果、この四半世紀で、ライチヨウのなわばり数が南アルプスでは約6割減、北アルプスの長野県側で約4割減となつたとされる中、室堂など富山県側では、安定か若干増となっています。

また、富山駅北の富岩運河環水公園の入園者が5年間で7割増の約117万人となり、松川べりに高志の国文学館が、海王丸パーク近くに新湊大橋が、各々昨年、オープンしました。県民が楽しみ、誇りに思うとともに、立ち寄った首都圏の人々に、もう一度来たいと思つてもらえる場所にしていきたい。

さらに、県内で手軽に買える魅力的なお土産をもつと増やそうと、昨年から「まちの逸品プラッシュアップ」事業を始めました。現在15品目を選定し、専門家からアドバイスをいただき、特に女性に愛好され、買ってもらえるよう、プラッシュアップを進めています。

山田

知事を中心に取り組んでおられる今の動きは、県内にひとつつの波、うね

握っているのも女性ですから、女性の感性を活かすような商品が出てくるといいですね。地元の女性や子供たちが関わってくると、もつといいものができるのではないかと思います。

観光・地域の振興は 人間の振興

石井 最後に、県民や観光地域づくりで頑張っている皆さんに激励の言葉をいたさない。

山田 地域の誇りという話がありましたが、何のためにやるのかということを是非考えていただきたいと思います。損得ではなく、自分たちが生まれ育ったこの県を、豊かな県にしたい、ここで生活して幸せになりたい、ということを中心置いてやっていただきたいですね。

石井 自分たちの住む地域の魅力を磨くことが観光振興のためにもなる。そこに暮らしている人達が地域に誇りを持ち、楽しみ、幸せを感じることが大事ですね。そういう意味では、観光振興とか地域振興のためにも、結局は人間の振興を図ることが大切だと思っています。

りをつくっています。英語で言うとValueですが、WはValueで、豊かな県、幸せな生活を築くという強い「意志」を持つていただくこと。AはActionで、いろんな方たちが自ら「行動」を起こすこと。VはVision。将来的な構想」をしっかりと持つこと。言い方を変えるとValueにもなり、地域に対すること。そして、最後のEはEnjoy。

石井 ありがとうございます。富山県が





莊嚴な美しさと、
歴史の謎が織りなす、
異空間へ。

とやまを観る旅。 第2回 国宝 瑞龍寺



高岡山瑞龍寺●富山県高岡市関本町35●TEL 0766-22-0179●
拝観時間:9時~16時30分。(12月10日~1月31日は16時まで)●拝観料:大人500円、中高生200円、小学生100円●無休●WEB SITE
<http://www.zuiryuji.jp/>



歴史の狭間で生き抜いた、前田家の思いを伝える寺。

県西部の高岡市にある高岡山瑞龍寺は、高岡を開町した加賀藩二代藩主の前田利長の菩提を弔うために建てられた曹洞宗のお寺です。山門、仏殿、法堂が、江戸時代の建築技法で建てられた寺社建築物としては全国で初めて、国宝に指定されました。境内では、整然とならぶ伽藍と庭園の鮮やかなコントラストが目の前に広がり、まさに別世界。美しさと荘厳さで訪れる人々を魅了します。

高岡は慶長14年(1609)に前田利長によつて開かれ、利長が富山にあつた

法円寺を招いたのが瑞龍寺の前身です。利長が1614年に亡くなり、弟で加賀藩二代藩主の前田利常が、利長の三十三回忌にあたる正保3年(1646)に墓所を造営。それと並行して寺の大改逕を始め、約20年の歳月をかけて瑞龍寺の建築を進めたと言われています。

一直線に並ぶ主要伽藍を軸に、左右対称に整然と伽藍が配置され、その周囲を印象的な長い回廊が結びます。どの角度で切り取つても美しい景色を眺めながら、当時の建築技術の粋をゆつくり堪能する方がお勧め。「トイレの神様」として知られる鳥穂沙摩明王(うすさまよいうおう)も法堂横に祀られています。

瑞龍寺から八丁道(はつちょうみち)という石灯籠が続く参道を約1キロ進んだ先には、利長の墓所があります。こちらもぜひ、立ち寄つてみませんか。

「なぜ、本来は弔い上げの三十三回忌を瑞龍寺副住職の四津谷道宏さんは、期に瑞龍寺が建てられたのか。仏殿の屋根に鉛が使われた理由や、法堂のまん中に利長公の位牌が置かれている理由など、前田家にはさまざまな思いがあつたはずですが、史料に残されておらずまだまだ謎が多い」と語ります。いざと言うときには城の役割を果たす目的があつたとも言われる瑞龍寺。歴史の謎にも思いを馳せてみませんか。



2015年春 北陸新幹線開業

お問い合わせ:富山県知事政策局新幹線開業対策担当 TEL 076-444-4056
北陸新幹線「富山県」開業PRサイト:<http://www.toyama-shinkansen.jp/>

平成26年度末の北陸新幹線開業(長野→富山→金沢)に向け、県では昨年7~8月にキャッチフレーズを募集しました。全国から6,800件を超える応募があり、その中から「きてきて富山」と富山に決定しました(きときと・富山の方言で「新鮮な」「活きがいい」)。

また、9月には北陸新幹線新型車両の概要が発表されており、このキャッチフレーズのロゴデザインはその車両で採用された銅色と青色に揃えたデザインとしまして。今後、新幹線「富山県」開業を県内外に積極的にPRしてまいります。

「きてきて富山 きときと富山」 北陸新幹線「富山県」 開業キャッチフレーズが決定

昨年10月に「氷見漁港場外市場・ひみ番屋街」がオープンしました。氷見市沖に浮かぶ唐島(からしま)、その背景に、富山湾越しの立山連峰を一望できるロケーションで、漁師の作業小屋である「番屋」をイメージした外観、そして、「食と健康」をテーマに回転寿司などの

氷見市のさらなる賑わいを創出するこの拠点で、さまざまな「魅力・楽しさ・驚き」を感じてみませんか。

お食事から鮮魚や農産物などのお土産まで32の飲食店・専門店が一同に集結。隣接して日帰り温泉「氷見温泉郷総湯」もオープンしました。



営業時間:鮮魚・物販施設8:30~18:00、フードコート8:30~20:00、飲食施設11:00~21:00、回転寿司10:00~21:00 富山県氷見市北大町25-5 TEL 0766-72-3400 <http://himi-banya.jp/>

富山な幸の日 in 東京

富山県の物産と観光展

寒ブリなど富山湾の海の幸から井波彫刻などの工芸品まで富山県自慢の味と技の品々を多数ご用意しています。皆様のお越しをお待ちしております。

2月7日(木)~13日(水) 10:00~20:00(最終日は17:00まで)
[東急百貨店 吉祥寺店 8階 催物場 武蔵野市吉祥寺本町2-3-1]



写真は前回のイベントの様子です。

出会いが効く越中富山のくすりフェア

300余年の歴史と伝統をもつ「富山のくすり」。熊胆円、六神丸、赤玉など富山の置き薬を中心に、現役の壳葉さんがみなさまの相談に応じます。

3月1日(金)~3日(日) 10:00~18:00(最終日は17:00まで) [いきいき富山館]



写真はイメージです。



「るるぶ特別編集 とやま漁港めぐり」を発行

「漁港」を切り口とした観光PR誌が完成しました!
「いきいき富山館」において配布中です。

いきいき富山館

JR有楽町駅前 東京交通会館B1F
<http://toyamakan.jp>

とやま美食通信



完熟の甘さを
お楽しみ
ください!
料理にも
飲み物にも
おいしいですよ。



JA山田村の
山田村特産
若林正幸さん
加工組合の
谷川覚広さん

自然豊かな田園風景が広がる富山市山田地域(旧山田村)では、秋に実るりんごや柿を、独自の加工品にして販売し、人気となっています。

J A 山田村では、特産のりんごを使つたりんご100%ジュースを生産。標高300メートルの昼夜の寒暖差の大きい山間で育つりんごは、完熟してから収穫するため甘みもたっぷり。ジュースにしてもおいしさが違うと評判です。

山田村特産加工組合では、古くから村の柿で作られてきた柿酢が名物です。最近では、柿酢を使ったソースなどの調味料を開発し、かわいらしいパッケージで販売中。柿酢はビタミンやカリウム、カロチンなど、栄養分も豊富。独特の風味が食欲をそそります。

山田村のりんごジュースと柿酢



山田村のりんごと柿

富山市山田地域で約20年前から生産し始めたりんごは「ふじ」が中心。寒暖差の大きい高地の畑で育ち、完熟したもののみを収穫するため、糖度の高さが特徴。一方の柿については、水島柿をはじめ、山の中の日当りの良い樹で育った柿を原料に、柿酢を作っています。(柿の販売は行っていませんので、ご了承下さい。)

- りんご100%ジュース 1本700円、箱入り3本セット2,000円 お問い合わせ: JA山田村 富山市山田中村244番地 TEL 076-457-2211 FAX 076-457-2213
●山田村の柿酢シリーズ 山田村の柿の原酢500ml 1,500円 山田村の柿のしずく500ml 2,100円 柿酢調味料5種セット2,400円~ お問い合わせ: 山田村特産加工組合 富山市山田小島2600番地(富山市八尾山田商工会内) TEL 076-457-2206 FAX 076-457-2251 <http://yamada-kakisu.shop-pro.jp/>
抽選で5名様に柿酢調味料5種セット(5種の内容はおまかせ)をプレゼントします。詳細は、挟み込みのアンケート用紙をご覧ください。



表紙の写真
冬晴れの立山連峰

万葉の歌人、大伴家持が神の山として讃え、歌に詠んだ立山(たちやま)。県内各地から望むことができ、時折すつきりと全容を現す立山連峰は、家持が「見れども飽かず神からなし」と詠嘆したように、何度見ても神々しく、見飽きることがありません。立山は今も昔も富山の人々の心の拠り所であり、大切な宝物なのです。

エッセー わたしのとやま

映画監督・キヤメラマン

またまた立山の思い

木村大作

2006年2月、冬の日本海を撮りたくて能登半島へ向かった。その帰路に立山町や上市町から、立山連峰そして剣岳を見上げた。素晴らしい山景を見て感動し、畦道で小説を読み返した。やっぱり「剣岳 点の記」を映画化したいと強く思つた。それ以来、立山町には何度も詰めただろうか。

「剣岳 点の記」は2年間、200日以上を立山連峰での撮影に費やした。CGや空撮を使わず、脚本の流れ通りに「順撮り」を貫いた。「これは撮影ではない。」行“である”と自らはもちろん、俳優やスタッフに言い聞かせた。長い映画人生で学んだのは、厳しさの中に美しさがあるということ。立山の厳しい自然があつたから、それに立ち向かう人間の美しさが引き出せたのだ。キャメラマンとして日本全国、世界70カ国ぐらい訪れているが、

一番美しい山は立山だと思う。山岳観光地がほかにある中、あれだけ整備されているのは立山くらいだ。

北海道の離島が舞台で、吉永小百合さん主演の「北のカナリアたち」では撮影を担当させてもらった。実はこの前に、「剣岳 点の記」と同じ新田次郎さんの原作「孤高の人」を映画化する構想があつたが、厳冬期の山中が物語の中心となるため、慎重に考え断念した。しかしこの次こそ、自らメガホンを取る場所は立山だと心に決めていた。

多賀谷治さんをはじめとした山岳ガイド、山小屋関係者など、富山で多くの人々と知り合いになり、親交が続いている。「点の記」の時から今も、富山の人々の思いやりの心には感謝の念でいっぱいになる。もはや富山は僕の古里。どうも、ありがとうございます。